

大規模団地 再生を模索



現代的な1LDKの間取りに生まれ変わった室内は好評だった（横浜市青葉区で）

リフォームで間取り工夫 市も住民のアイデア募集

建物の老朽化や入居者の高齢化などを背景に、横浜市で大規模団地の再生を模索する動きが出ている。都内の民間団体が団地に若い世代を呼び込もうと、間取りを変える本格的なリフォーム物件を販売しているほか、市も団地の再生に向けて住民を支援する事業を行っている。

（矢牧久明）

同市青葉区すすき野のすすき野第一団地の一室。16日まで3日間行われたリフォーム物件の内覧会は30歳の夫婦を中心に約100組が訪れた。「古い団地とは思えない」「こんな部屋

に住みたい」などと好評だった。人気の秘密は、1LDK（48・99平方メートル）の広々とした空間と、モダンな雰囲気仕上げた内装。元々の間取りはファミリー向けに設計された「田」の字形だが、大胆なリフォームで室内の壁を取り払った。築39年で1550万円と、価格はやや高めだが、企画、販売する団地再生事業協同組合（東京都千代田区）は「予想以上の反応」と手応えを感じている。

1974年に完成した第一団地は、鉄筋コンクリート造5階建ての35棟が立ち並び、総戸数は820戸。人気エリアの田園都市線沿線にあるため、大量に空き室が出ることはなく、今回、売り出されたのは1室だけだ。それでも同組合

は、間取りを工夫して若い世代を呼び込むことで、団地コミュニティの高齢化に歯止めをかけようとしている。

同組合のディレクターで1級建築士の間宮康尚さん（39）は「団地の良さは子供からお年寄りまで住民の顔が見えるぬくもりのあるコミュニティ」と指摘、「若い人に住んでもらい、敷地内にカフェや農園を作ったり、カーシェアリングをしたりすれば必ず再生できる」と力説する。

一方、横浜市も団地の再生支援事業に乗り出している。市によると、市内にある民間の集合住宅約33万6700戸のうち約6万戸が築40年以上となっている。

高齢化や空き室の大量発生など課題を抱えたケースが多いことを踏まえ、今夏、団地の住民から再生案を募った。寄せられたアイデアから今月末までにモデル団地を選定し、再生に向けた計画策定などを支援する。

市住宅計画課は「老朽化や高齢化に対する住民の関心は高まっている。住民が自分たちが団地を再生できるようにサポートしていきたい」としている。

セイタカアワダチソウで草木染



引地川公園泉の森内で繁殖したセイタカアワダチソウ（大和市提供）

生態系に深刻な影響を及ぼすとして、環境省が要注意外来生物に指定している「セイタカアワダチソウ」を市民の手で駆除し、草木染をするイベントが10月26日、大和市上草柳の「自然観察センター・しらかしのいえ」で開かれる。同センターによると、北米

大和で来月26日 市民の手で楽しく駆除

原産で繁殖力の強いセイタカアワダチソウは1〜2メートルの高さになり、在来種の生育を妨げる。黄色いきれいな花をつけるが毒素があり、種を飛ばす秋までに駆除する必要があるという。

同センターは2008年頃から、セイタカアワダチソウを使った草木染をしてきたが、繁殖のペースが速く、今年には市民の手も借りることにした。当日は午後1時から、「引地川公園泉の森」でセイタカアワダチソウを引き抜き、染め物歴20年という秋山博さん（65）指導で草木染をする。

申し込みは26日から、先着30人。ハンカチや薬品代として参加料500円がかかる。問い合わせは同センター（046・264・6633）。